

「第1回むすびえ全国こども食堂実態調査」への意見書

2021年（令和3年）12月10日

特定非営利活動法人わっか 代表理事 柳生のび
Office JUN 代表 佐藤真紀
よりみちステーション 小林由枝
まいばら市居場所づくりネットワーク 振角大祐

NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえによる、全国の子ども食堂を行なっている団体に行なわれている「第1回むすびえ全国こども食堂実態調査」について以下の通り、意見を述べます。

第1 意見

1. 第8問について

下記に第8問について記載します。

第8問 特別な配慮を要すると思われる子どもの参加人数（こども食堂の開催1回当たりの平均）についてお答えください
※運営スタッフは除きます。

※該当者がいない場合は「0」と記入してください

身体障害を持つ子ども

知的障害を持つ子ども

発達障害を持つ子ども

心身の病気を持つ子ども

経済的に困窮している子ども

虐待・暴力を受けている子ども

性的マイノリティの子ども

孤立している子ども

外国にルーツのある子ども

その他（具体的に）

アンケートの目的を読んでも、この問い合わせへの疑問がありますので、その点について述べます。

1.1. この質問は、子ども食堂を行なっている団体にとって、子どものまるごとを受けとめようとしている活動を壊してしまう可能性があるものです。ある団体が「この設問には答えたくない」と回答をしなくとも、他の団体の回答を結果として公開した場合、子どもたちが「自分のことをそういう目で見ていたのか」と感じ、子どもの尊厳を奪い、子ども食堂に来なくなる可能性があり、活動者の思いを踏み躡るものもある。子ども食堂を支援する団体として、すべき質問ではないと考えます。

1.2. あらたな子ども食堂へのイメージづけになる可能性のあるものです。これまでも、子ども食堂には、貧困対策、あそこは困った子が行くところだというイメージがありました。それにより子どもたちが傷つくことがありました。それが、やっと薄まってきている今、新たに子ども食堂は「〇の人がいくところだ」というイメージがつきかねません。子どもたちの尊厳を傷つけ、現場で活動をしている人の思いを踏み躡るものです。

1.3. 「経済的に困窮」「虐待・暴力」「孤立している」は定義が曖昧で、回答者によって意図するものが変わる設問になっています。電話でこの問い合わせを設定した理由を尋ねたところ、『子ども食堂の実態を知るために基礎的データとして使用する』とありました。定義が曖昧なものを基礎的データとして使えないのではないかでしょうか。

1.4. この設問を基礎的データ以外として使用する意図がなかったのだとしたら、アンケートとして設問にいれるべきものではないです。アンケートによって何のアクションも起こさないのであれば聞く必要がありません。

1.5. 次回、この設問を行わないのであれば、その理由をきちんとアンケートに書いてください。また、この設問に対する見解をホームページなどで公表してください。

1.6. アンケート結果の公表に関しては、意見書を十分に反映し、その取り扱いには十分に注意をしてください。

最後に

本アンケートは、NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえのビジョンである『子ども食堂の支援を通じて、誰も取りこぼさない社会をつくる。』の、子ども食堂支援に対する言葉と相入れないものです。中間支援組織として、また、全国の子ども食堂を代表する立場として、貴団体はこれまでも中心的な役割を担ってきています。今後も政策提言などの活動をされるのであれば、現場の声をもっともっと真摯に聞く必要があると考えます。